

## 第 31 回 日本外来小児科学会 予防接種・感染症対策委員会 議事録

日時：令和 5 年 1 月 22 日（日）19 時 0 0 分～

ZOOM によるオンライン会議

参加者 太田・落合・神谷・西藤・崎山・田原・永井・長井・中野・中村・藤岡・牟田・八木・横田・吉川

（50 音順 敬称略）

### 報告事項

#### 1. 第 31 回 日本外来小児科学会 年次集会報告（牟田先生）

##### WS の報告（落合先生）

ワクチンリテラシー 感染症と予防接種の教育 というテーマで WS を実施した。

医師 7 名 事務 1 名 企業担当 1 名の参加であった。

1 部は 子どもに見せる目的で作成した動画 から討論

7 分という時間が長い。という意見が出た。

今の保護者は 長い文章や、動画は見てくれない という意見から、この世代に響くものを作っていく工夫が必要ということになった。

2 部はアンケートの結果を受けての討論で、

学校との連携のむずかしさが語られた。

今後は ペリネイタルビジットなどを通じた早期からの啓発活動が必要ということになった。

#### 2. 第 32 回 日本外来小児科学会 年次集会準備状況

##### WS 開催予定 >

##### ① 感染症の迅速検査について考える（牟田先生）

FilmArray の使用を開始している。これ以外の迅速診断キットのことなども含め、WS を実施。

サブリーダー は長田先生、委員の中で興味のある方にサブリーダーになっていただきたい。

##### ② 「他所はどうしてる？」うちではこのようにして予防接種をしています。（中村）

医療安全の面や、効率的な予防接種の実施 のため、各医療機関でどのような取り組みをしているのか、各施設が動画を持ち寄り、実際の接種現場を見て議論する。

サブリーダー は崎山先生

#### 3. 日本小児科学会予防接種・感染対策委員会報告（神谷先生）

ワクチンヘジタシー対策として、心理学的なエビデンスに基づいて構築された推定アプローチと動機付け面接 を防ぐために、心理的アプローチの方法について、アメリカ小児科学会と共同で 10 名程度の医師がトレーニングを受けた委員が体験 した。今後全国展開していく予定であり、先生方もぜひご参加いただきたい。

今後のコロナ流行に対応するための医療体制をどうしていくのか の議論

濃厚接触者の隔離問題、患者診察の際の感染対策（Full PPE）をどうするのか

4. 日本小児科医会 公衆衛生委員会（藤岡先生 田原先生）  
コロナワクチンが小児科で進んでいないことにどう対応するか
5. おたふくかぜワクチンの副反応調査（西藤先生 中村）  
3月いっぱい接種者が対象となる。現時点では5万人くらいの登録者になる。  
髄膜炎の報告は 現在8例 だが、症例のみを登録している施設もあり、数として採用するかどう  
うか、検討課題。  
1月29日に ZOOM で呼びかけ

#### 協議事項

1. e-learning 問題について（長井先生）  
e-learning 検討会から修正依頼があり、既に修正されている問題を1月末から順次会員に公開し  
ていく。  
まだ修正がされていない 接種の実際・追加問題作成依頼（渡航ワクチン関係）
2. おたふくかぜワクチンの副反応調査 現状の問題点と今後の方策（西藤先生）  
これ以上の数を増やすことは難しい。これで何とかデータとして活用できないか？
3. 日本版 VSD の構築について（神谷先生）  
国が予防接種台帳とレセプトデータを突合せさせたシステムの構築を検討している。この方法は制  
限が多いため、これまで取り組んできている外来小児科学会の先生方による予防接種歴とカルテ情  
報の突合について引き続き取り組んでいく。その際に、必要なデータを自動で収集しデータを構築  
する機能レセプトデータを使用しての調査を検討中（CDX）が使用可能か システムの導入を検  
討中。
4. 意見交換
  - ① コロナ流行期の 予防接種率低下について（田原先生）  
日本においては、1歳児の MR 接種等、一部コロナ流行と重なった時期に接種ペースが落ちたが、  
最終的にはいつも通りに接種完遂率であった。  
2期の接種率が低く、例年を下回るかもしれない自治体がある。
  - ② 小児における long COVID  
HPV ワクチン後のような身体症状を訴える例がある。不登校などの症状が多い  
今年の小児科学会でシンポジウムが組まれる  
MIS-C がらみの心臓障害の例
  - ③ コロナワクチンの 長期副反応  
心筋炎は 思春期男性に多くみられている。  
国立三重病院がアプリを使って、接種保護者に症状入力させる研究をスタートさせている
  - ④ 今後の百日咳ワクチン  
4種混合が2か月から接種可能になった（これは、将来導入予定の5種混合ワクチンが、そのあ  
との混合ワクチン導入の前段階である）と考える。 就学前の接種に関しては、4種混合が 5回  
接種できないこと、ポリオのIPVの評価ができていないことがネックになっている

⑤ 帯状疱疹の増加

小児期・ワクチン接種世代での増加は見られていない。成人期以降で増加

⑥ 感染症の流行状況を調査していく

西藤先生から 現在の hMPV の流行状況の説明があり、感染症サーベイランスに入っていない疾患の、流行状況を把握していくことの提案があった。

Film Array などのデータを共有できないか？

この機械の使用は、コロナ特例が終わった後は、検査費用が持ち出しとなる可能性がある。とのコメントがあった。

永井委員から 委員退任の希望があった。